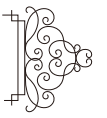


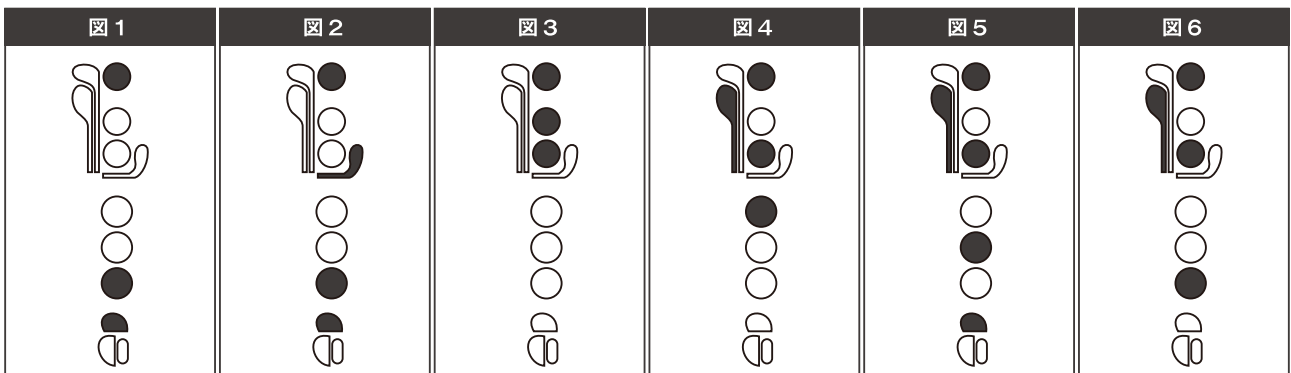


I 「あんたがたどこさ」の主題による幻想曲／林 大地



◆Piccolo

6小節目に *cresc.* がありますが、Piccolo は7小節3拍目くらいからかけると効果的ではないかと思います。16小節目のCは図1の運指にすると安定しやすいです。低い場合は図2の運指です。楽器などにもよりますのでどの指が良いか試してみてください。17小節目からは指示はありませんが *mf* より楽な音量で吹くと軽くなりやすいです。29小節目のGの音程が高過ぎる時は図3の運指にしましょう。31小節目のFも図4の運指にすると低くなります。51小節目は音が高く、目立ちやすいので *mf* から始めると *cresc.* が効きます。92小節目からのF#が高過ぎる場合は図5や図6の運指にしてみてください。Gも同じく高くなりやすいですね。図3の運指で吹いてみてください。96小節目は *mf* ですが目立ちやすい音なので *p* から始めると良いです。音量を上げる時にピッチを下げる運指に変えていくのもアイディアの一つです。[H]は *mp* ですが、目立つ音域ですから *p* で吹くとバランスを取りやすいです。[I]は Glock. と一緒です。Glock. と音程確認をしてみたり、一緒に練習すると良いですね。117小節目は *rit.* の3、4拍目を特に8分音符単位を忘れずに指揮と合わせましょう。

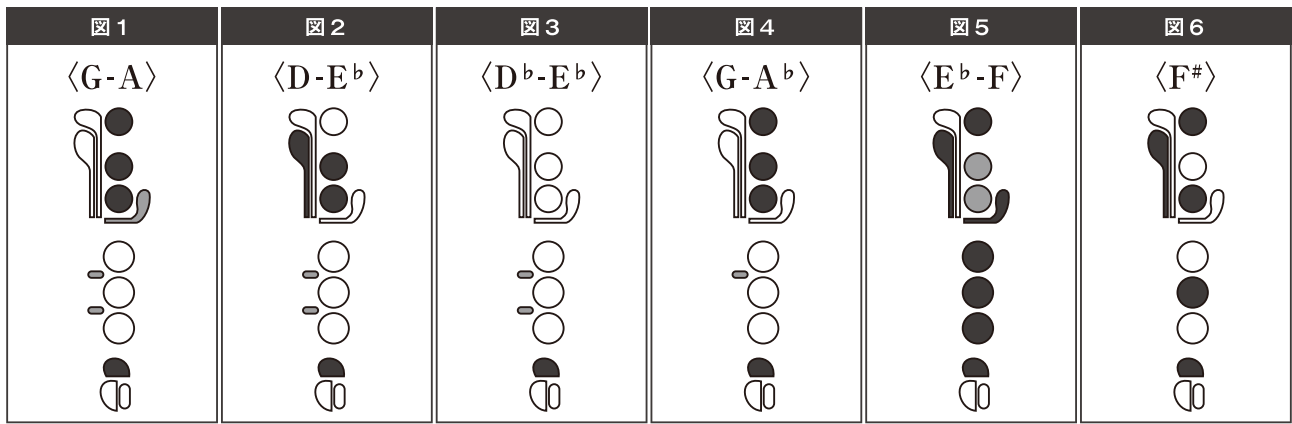


◆Flute

冒頭の1st Soloアクセントは“強く”というよりはその音に重心を乗せるように流れを持っていくつもりで吹くと良いと思います。1stの6、7小節目と29、30小節目の3オクターブ目のG-Aのtr.は図1の運指が一番音程が良いと思いますので、安定してtr.し続けられるよう練習しましょう。2ndの6、7小節目と29、30小節目のD-E^bのtr.は図2、tr.は基本的にきっぱりと頭にアクセントを付けるつもりで素早く吹いてください。ただし103小節目と105小節目のtr.は頭の音を響かせて少しゆっくりから動き出した方が、柔らかい雰囲気が出て良いと思います。41小節目のFl.の旋律はEuph.の動きを意識して、43小節目のCの音へ向かうように吹きましょう。[D]からの旋律にはテヌートがたくさん書かれています。レガートで息の長い旋律をぶちぶち切らないようにテヌートの書かれた音符は丁寧にタンギングするようにしましょう。また[D]は *mp* で始まり、[F]で *f* に達するので最初から吹き過ぎないようにダイナミックのコントロールに注意しましょう。82小節目のD^b-E^bのtr.の運指は図3。105小節目の1stG-A^bのtr.は図4。2ndE^b-Fのtr.は図5。106小節目からのPicc.、Fl.1st、2ndは3オクターブでのユニゾンとなっているので、音程に注意しましょう。171小節目の2ndの

F#は音色が高くなるように図6の運指で吹くと良いでしょう。

● = 抑える指 ● = tr.する指

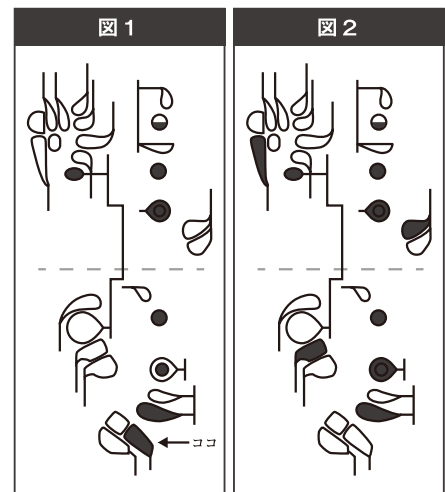


◆Oboe

Aから始まる連符が5小節目以降何度か出てきますが、連符最後のFの音は左手小指を使った運指かフォークF、自分が使い易い方を選んで下さい。各々動かし易い指は異なるので正解は1つではありません。ちなみに私は15小節目の連符のみ左手小指の運指で他はフォークFを使いました。23小節目のtr.ですがこの曲はテンポが速いため、右手小指でのtr.が上手くいかない場合は左手小指でのtr.も試してみてください。26、27小節目の形が出て来た時はフォークFを使っておいた方がin Tempoになった時苦戦しなくて済むかもしれません。89小節目の連符ですが最後のE^bはD^bの時に使った右手小指を滑らせて通常の運指を使う方法と、左手小指の替え指を使う方法があります。94小節目の連符も、音は少し変わりますが同様です。連符が上手く出来ない場合はやみくもに練習するのではなく、どの音が抜けてしまっているか、滑ってしまっているか等をしっかり認識しましょう。[H]からのSoloは特にフレーズ感を意識して下さい。105小節目に最もエネルギーが必要となりますが、105小節目に入ってから意識するのではなく104小節目から準備しておきましょう。119小節目のSoloは低めの音域のため出るのをためらってしまうかもしれませんね。前のA.Sax.の流れに乗り、お腹の支えとブレスの準備をしっかりとすること。またF#を鳴らすのにどれくらいの息のスピード・圧力が必要なのかを研究してみてください。

◆Bassoon

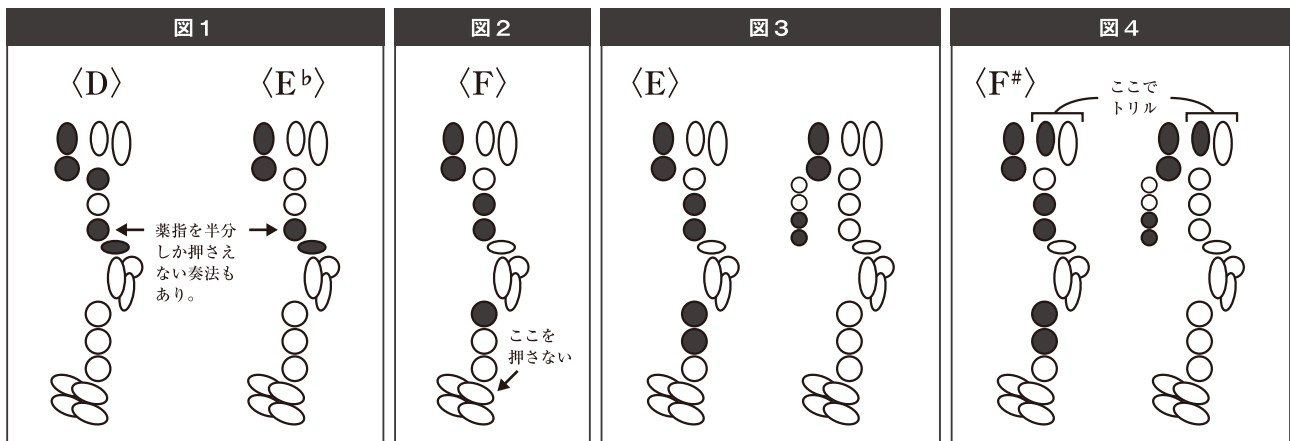
6/8拍子のリズムをしっかり刻めるように練習しましょう。決して細かい3、6拍目が後ろに行き過ぎないように注意しましょう。14小節目のF#を小指で取ることも出来ます(図1)。31小節目からのdecresc.を早くし過ぎないように注意しましょう。[D]からはレガートですが伸びたり遅くならないように気を付けましょう。99小節目からはEuph.としっかり合わせてテヌートアクセントもしっかり吹いてみましょう。118、119小節目のF#は替え指を使うと少し音がこもるので飛び出して聴こえにくくなります(図2)。124小節



目からのメロディは同じ音が続く時は長くなり過ぎず、後の音を少ししっかりめに吹いてみましょう。150 小節目からは B.Cl. と音の長さ、ニュアンスなどをしっかり合わせましょう。細かいは 2 小節目ごとですが、大きくは 8 小節目フレーズという事も意識してみましょう。[M] はもう一度 mf を意識し直して下さい。174 小節目はもう一度 mf に戻るようにして下さい。

◆E^b Clarinet

この曲は Flute セクションと同じ動きが多いので、常に音程や縦の線に注意して演奏しましょう。17 小節目や 41 小節目に出てくる G から D への跳躍時に D の音が高くなってしまいやすいです。また [D] からの旋律にもこの D の音が出てきます。E^bCl. の特性で高くなってしまいやすいので、口でコントロールして演奏するのも良いですが、どうしても難しい場合は、図 1 の運指を参考に正確な音程を取ってみてください。同じく E^b の音も高くなりやすいので補正の運指と一緒に確認しておいてください。旋律の 64、65 小節目が特に難しいと思います。上の F の音程が高すぎる場合は図 2 の運指を参考にしてみてください。181 小節目の tr. は図 3、4 の運指を参考にしてみてください。高い音でのタンギングも多いので舌が下がらないように注意し、早い息を使って演奏しましょう。



◆B^b Clarinet

冒頭の p のハーモニーは各パートとも、とても繊細な音色のコントロールが必要です。アンブシュアをよくコントロールして p でかつクリアな発音を目指しましょう。3 小節目のハーモニーはとてもバランスが難しいので十分に練習してください。[A] のメロディは 8 分休符を挟んでいるためフレーズが切れ切れになりがちです。軽快で流れのある演奏を目指しましょう。25 ~ 27 小節目にかけての fp からの cresc. はスピード感をもって鮮やかに ff までいきましょう。28 小節目の 3 拍子は軽く cresc. を入れて、次の sfz を明確に見せましょう。31 ~ 32 小節目にかけての decresc. はしっかりして次のメロディの入口が不鮮明にならないように注意してください。47 小節目の最後の 4 分音符は短くならないように注意しましょう。40 小節目からの mf はメロディから別の役割になるので音量バランスに注意して演奏しましょう。54、55 小節目等に見られるテヌートははっきりと発音して、6/8 拍子のリズム感が損なわれないように注意しましょう。68 小節目に向けての cresc. はしっかりと mf までいきましょう、ただその先は広がり意識したいところですが、全体の音量バランスに注意が必要です。

89、90 小節目の 8 分音符 2 つはリズムが詰まってしまいやすいので均等に演奏できるように練習しましょう。101 小節目のハーモニーも冒頭と同じく繊細さが求められる箇所ですが、mp ですので決して萎縮せずに演奏し、その後の decresc. をしっかりと。106 小節目からのメロディは他のセクションとともにフレーズの重心をよく統一させて演奏してください。特に Picc. とのアンサンブルがとても難しい箇所ですので、正しい音程で演奏するためにも音量のバランスに注意して演奏してください。[I] からは 2nd、3rd はオクターブが下がりますが、しっかりと支えになるようバランスに注意しながら演奏してください。[L] からはハーモニーは mp ですが、音の配置の関係上音量調整が必要な箇所ですので、他のメロディやリズムセクションの邪魔にならないようなバランス作りを意識しましょう。

◆E^b Alto Clarinet

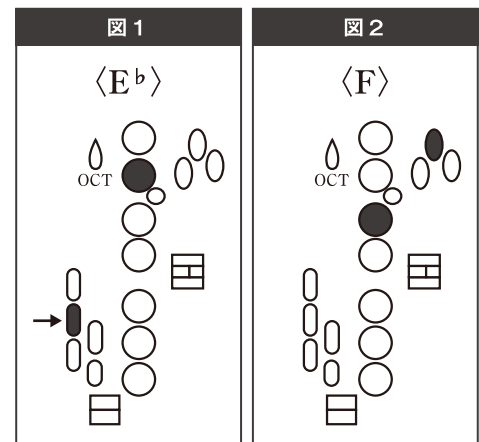
冒頭の p での E^b の音タイミングを合わせるのが難しいですね。息、舌の動きに気を付けて強くならないようにしましょう。3 小節目の D^b 右手キィも使って安定した音が出せるように工夫してみてください。32 小節目のフレーズは Alto Clarinet と同じ形を吹いているのは Euph. のみとなります。Euph. としっかりとアンサンブルしましょう。[E] からの主旋律はレガートとテヌートの吹き分けを工夫しましょう。133 小節目のフレーズは上行形ですが dim. で書かれています。勢いで cresc. にならないように気を付けましょう。

◆B^b Bass Clarinet

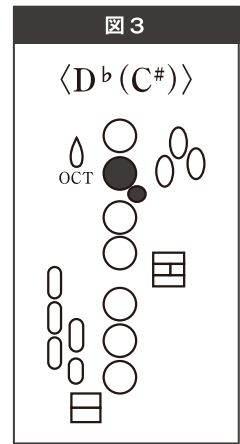
冒頭、1 拍目から p で吹くのは難しいですが、がつんと音を鳴らさないように心がけ、柔らかく吹きましょう。4 小節目から 6/8 拍子が速めのテンポで始まりますが、常に自分の中で 8 分音符を感じて演奏しないとテンポがすべっていってしまうのでしっかり 8 分音符を感じて演奏しましょう。[L] からは Bassoon と音の形、発音を揃えましょう。stacc. ですが、音を短くし過ぎず（音程が聴こえるように）、しかし硬めに吹きましょう。

◆E^b Alto Saxophone

1st の 7 小節目 tr. は図 1 の運指を使用します。矢印部分を素早く動かします。[A]2nd パートは少し低い音域ですが T.Sax. と同じ音域ですので、2 人で 1 つになれるよう、音の形をオクターブ上の 1st としっかりと揃えて音をまとめて発音しましょう。53、61 小節目の 2nd の音はハーモニーの中で特殊な音ですので、この音だけ特別に少し目立たせるように演奏するとお洒落です。[E][M] はその前でメロディを演奏している Fl.Cl. と音の形、歌い方をよく揃えて。79 小節目の sfz. は目立たせるようにはっきり発音しましょう。106 小節 4 拍目、107 小節 2 拍目最初の F 音は p のニュアンスを表現する為に図 2 の運指を使っても良いでしょう。106 小節 2 拍目頭の E^b 音も図 1 の運指のサイド・キィを使用しても良いのですが、私達は音色を優先して通常の運指を採用しています。好みの

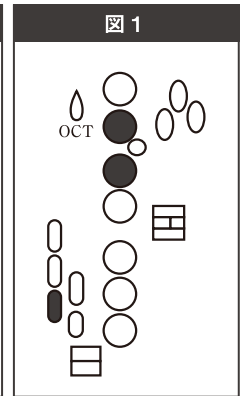
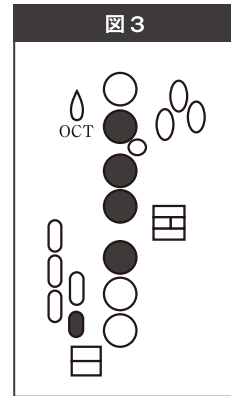


ニュアンスが表現出来る運指を選択してください。109 小節目の cresc. は大胆に。2nd の 113 小節 2 拍目裏の F 音は同じく図 2 の運指を使用しましょう。118 小節目の 1st Solo は 3 拍目の 16 分音符に向かってほんの少しだけ cresc. をし、3 拍目頭にテヌートを付けてフレーズの重心を作りましょう。1st の 186 小節目の D^b は図 3 の運指を使います。2 つのキィを人差し指 1 本で半分ずつ押さえるようにします。前の音の時から D^b の指をスタンバイさせて乗せておくと良いでしょう。



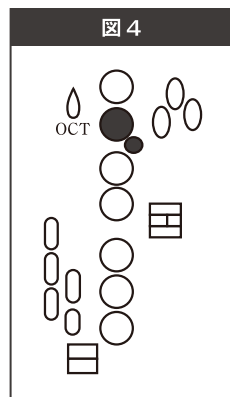
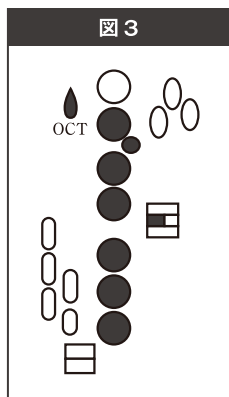
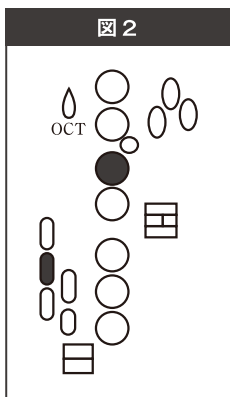
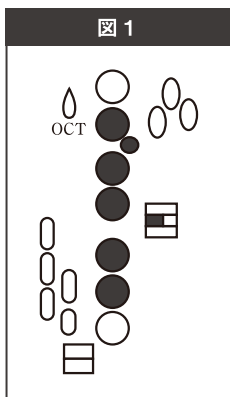
◆B^b Tenor Saxophone

[A] からの旋律ですが、フレーズの重心を考えながら吹きます。一度、「あんたがたどこさ」を歌ってみると分かりやすいと思います。28 小節目は楽譜には書いていませんが次の sfz に向かって少し cresc. するとフレーズが繋ぎやすくなります。[D] からの音を伸ばしているフレーズですが、テンポ感を失ってしまいやすいので注意して吹きます。80 小節の 2 拍目の F[#] は音がひっくり返りやすい音です。指の動きに注意して吹きます。特に薬指の動きが遅くなってしまうたり、早くなってしまうたりするとひっくり返りやすくなります。94 小節目からの 8 分音符 E から E[#] の運指は図 3 の Tf キィを使うとスムーズになります。[I] の 3 拍目の A^b は図 1 の Ta キィを使うと次の音に繋げやすくなります。184 小節目の終わりの音は 185 小節目に Euphonium の旋律があるので余韻を残さずしっかりと切ります。



◆E^b Baritone Saxophone

4 小節目の G の音程が高くなる場合は図 1 の運指を使います。曲全体で G の音程が同様に感じる場合は図 1 の運指を使います。53 小節目 E^b の音程が低い場合は図 2 の運指を使います。55 小節目 F の音程が高い場合は図 3 の運指を使います。曲全体で D^b は図 4 の運指を使うと前後の音の繋がりがスムーズになります。伴奏として 4 分音符で刻んでいる事が多いですが、練習方法として 4 分音符を 8 分音符にタンギングで分けて「タタッ・タタッ」と言う様に吹いてみて下さい。何回か吹いてみて次に楽譜通りに吹いてみると 6/8 拍子の 4 分音符での頭打ちの感じが分かってきます。



◆B^b Trumpet

イントロ7小節目は、[A]に向かうキメなので、はっきり吹ききりましょう。17小節目のフレーズは20小節目の頭にもっていきように演奏します。[B]の sfz は前の音域から下降形のため、エネルギーを落とさず、またそれを保持したまま29小節目までキープしてください。[D]の2nd、3rdのフレーズは、スネアは1拍目、トランペットは2拍目に重心を置いています。[E]は1stのみ演奏します。[D]から続いている木管のフレーズと同じように。トランペットが入ることでさらに芯を太くするようなイメージで演奏してください。85小節目の cresc. は86小節の1拍目にある8分音符3つで駆け上がるようなイメージで演奏しています。97小節目の強弱は f ですが、cresc. を気にし過ぎる事が出だしが中途半端にならないよう、始めからはっきり、sfz は「さらに短く」のニュアンスで演奏してください。[I]では1st、2ndがユニゾンのため、長いフレーズであることを意識して演奏します。また、音域が低いため、111小節1拍目裏、113小節4拍目裏のC音や115小節4拍目裏のF音ははっきり出しましょう。133小節目は前半にあった動きと同じですが decresc. があります。3拍目から短い decresc. のイメージで演奏すると効果的です。172小節目はオクターヴ上でピッコロ等が演奏していますので、そこに意識できるくらい余裕をもってください。最後の186、187小節目は少し音が取りにくい音の並びですが、逆から音を確認してみると良いでしょう。

◆F Horn

3小節目のコードを持っている木管楽器の人達と集まり練習してみてください。和音を積み重ねていき、良い響きを覚える練習をしましょう。ノンアタックでタイミング通り発音する練習をするのも良いと思います。[A]からメロディを吹いて、17小節目からは伴奏です。どちらも f の表記ですが、役割によって吹き分ける工夫をしましょう。[B]からテンポが揺れないように注意して下さい。28小節目の拍子が変わるところと、31、32小節の dim. のところは特に注意して下さい。[C]と[D]にはそれぞれ11小節目と14小節目の長い休みがあります。この間も音楽のスピードを感じていて下さい。前に鳴っている音を受け継ぐように演奏しましょう。[E]からは付点4分音符や付点2分音符で間延び、8分音符で走りやすいため、頭の中では細かくビートを刻んで演奏しましょう。グリッサンドは開始音をしっかり鳴らすとカッコよく演奏できると思います。105小節目の3拍目の頭の音に少し重みがあると素敵です。106小節目からのコードは p とありますが、あまり縮こまらず木管楽器を支えるように豊かに演奏してみてください。118小節目も冒頭と同じく難しいですが、パート内で何度も練習をして美しい瞬間を記憶してみてください。感動的なハーモニーが響くように祈っています。

◆Trombone

この曲は6/8拍子なので、基本的には強拍弱拍を上手く使ってリズム感を演出して下さい。まず4小節目から[A]にかけては、1stと2ndのぶつかっている音を使ってエネルギーが向かうようにします。[A]からは打ち込みが続きますが8分音符のカウントを全員の頭の中で行いながら演奏し、21小節目にあるメロディは息のスピードは速く、でもソフトなタンギングでまとまりのある音を作るようにしましょう。28小節目のようなグリッサンドが複数回出てきま

すが、全て真っ直ぐハッキリと、cresc. するにつれて息のスピードが速くなるよう操作しましょう。72、169 小節目のテヌートは「長く保つ」と言うよりは、息をたっぷりめに準備してその音の深さを作り、かつハッキリした音になるよう心がけると自然なテヌートになります。また、81、83 小節目の F の音は 6 ポジションで吹けるとスライディングは楽になります。[H] からのハーモニーは 2nd の 4 分音符の動きが見えるようにたっぷり、しかしポルタメントの音が入らないようにスライド自体は素早く動かしましょう。その際、肩周りは楽にするのがポイントです。[I] から、1st と 2nd が 8 分音符や 3 連符で動きますが、ひとつのパートだけ音が動く箇所は息を 2 倍使って動きをはっきりと見せてください。[K] からのメロディ、スライドのスピードは基本的には一定に、そして動いた先の音はハッキリと発音しましょう。

◆Euphonium

この曲はわらべうたの節を意識して吹きましょう。[A] からは *f* ですが、メロディの音量を越えないように。16 小節目は歌詞の所ですが、1 拍目と 3 拍目の 8 分音符が均等ではなく、1 拍目の方が重く勢いのある吹き方をしましょう。23 小節目からは B^b から D の音への跳躍でリップとタンギングのタイミングがズレないように注意しましょう。また、上行、cresc. していく音型が頂点で音が下がるので、息のコントロールをしっかりとしましょう。28 小節目も同じで 29 小節目が *sffz* なので上行音型で cresc. する感じで吹きましょう。32 小節目の音型は音を取りにくいのでゆっくりから練習し音程をイメージして吹きましょう。43、142 小節のフレーズ最後に D→G のリップスラーのタイミングが合わなければ最後の G を 3 番ピストンで吹いても良いでしょう。71 小節と 75 小節の 16 分音符と 8 分音符の違いを明確に。[G] からと 92 小節から始まる 8 分音符の動きの最後の 2 つを、16 分音符のように突っ込まないように気を付けましょう。99 小節目からはソロではないのでパートのメンバー、そしてファゴットとタイミングや歌い方を揃えましょう。100 小節目の最後にテヌートとアクセントがあるので少し cresc. して 101 小節の D へ向かいましょう。103 小節のソロは *mp* ですが 3 拍目の C へ向かって朗々と歌いましょう。最後の C は張らずに抜きましょう。124 小節目からのフレーズは歌の節に合わせて 4・2・3・3 拍子で感じましょう。185 小節目は Euph だけなので前の小節の音が残らないようにして頭からハッキリと吹きましょう。

◆Tuba

7、51、80、97、177、184 小節目などの cresc. とアクセントのかかっている連続する 8 分音符は、もちろん次の小節の頭の音など cresc. の向かっている音まで cresc. しますが、最初がどうしても聴こえにくくなってしまいますので、1 つめの音からかなりしっかり演奏するようにしましょう。音楽的にも、前のフレーズの終わりから次のフレーズの始まりを導くとても重要な役目です。はっきりと見せましょう。特に低い音から高い音に向かっている最初の音は聴こえにくくなります。68、165 小節目は cresc. はかかっていますが、役目としては同様です。*mf* より少し大きめに演奏して、次の小節で *mf* に戻しましょう。31、32 小節目や 133 小節目の decresc. は、低音が他の楽器より早く開始してはいけません。最後の 3 つの 8 分音符の 1 つめをしっかり吹いてからすぐに decresc. するくらいで十分です。102~105 小節目や 118、

119 小節目はそれぞれ Ob. や Sax のソコの伴奏です。複数で恐る恐る演奏して細い音で吹いてしまうと音程やタイミングが合いません。そういう場合は、one play にしてしっかり吹いても良いかもしれません。[D][H][I] はフレーズ感を大事にしながら、カンニングブレスをすると良いでしょう。

◆String Bass

4 小節目からと 7 小節目の cresc. が効果的に聴こえるように出だしの音量設定や大きくしていくタイミングを計算しましょう。また 7 小節目は 8 分音符が 3 つずつの刻みのリズムも入ってくるので、テンポが前に転がってしまわないよう注意してください。17 小節目からも同様です。[C] は 6/8 拍子の中での 4 分音符なので長く重たくならず少し軽く短めに演奏しましょう。[D] の pizz. は Tuba と一緒に長い音を演奏しているイメージです。左手をしっかり押さえて長めに余韻が残るはじき方を探してみてください。47 小節目のリズムは 3 つ目の F# が短くなりやすいところなので音価を意識しましょう。[G] は ff だからといって弓をたくさん使ってしまうと遅れていく原因になります。使う量や弾く場所、腕の重さなどを工夫して、力まないで 1 つずつはしっかり弾ける右手の練習をしましょう。[H] と [I] はメロディに合わせて抑揚を少しつけるだけで印象が変わります。スラーが書いてありますが難しいようであれば、途中で弓を返しましょう。ただその時には元のスラーを意識して、弓の切り替えしがわからないように、できるだけなめらかな移弦を心掛けてください。75 小節や 172 小節のリズムでのボウイングはダウン・ダウン・アップ・アップをお勧めします。

◆Timpani

ティンパニは太鼓としては唯一はっきりと「音階」を持っています。「音階を持つ打楽器」としては、他にもマリンバ等の鍵盤楽器がありますが、「奏者が自分で音程を作る」のはティンパニだけです。また、とても豊かな響きを持っているので、古くからハーモニー楽器として扱われてきました。ティンパニを担当する方はこの事をよく覚えておいて下さい！さて、この曲のティンパニ・パートを演奏する上で是非考えて頂きたい事があります。それは「和太鼓風のニュアンスで音作りをする」のか「あくまでも西洋の楽器として音作りをする」のか、という事です。どちらが正しいとか、優れているとかいうものではなく、曲の解釈や奏者の好みに関わってくる部分なので、指揮者や他の奏者の方とよく相談しましょう。参考までに、この DVD で私は基本的に和のニュアンスを目指していますが、[H]～[J] の間は響きを重視した西洋的な音作りをしています。どんな解釈で演奏するにしても、「どのサイズの楽器でどの音程を取るのか」「楽器のどのあたりを叩くのか」「どんな叩き方をするのか」「どんなマレットを使うのか」等、あの手この手を使って自分が出したい音を作ってください。演奏の解釈の幅がとても広い曲です。「正しい演奏」よりも、「自分らしい演奏」を目指して取り組んでみて下さい！

◆Percussion 1 (Triangle, Snare Drum, Bongos)

まずセッティングについてですが、Bongos は必ず高低が左右になるように置かなければいけないわけではありません。今回は高低が前後になるように配置しました。前後にすることで

[J] や [L] で手順が自由に選択できるメリットがあります。そして、ほとんどの場合ボンゴスタンドは立奏用を使用していることが多いと思われませんが、そのままではスティックで叩くには高すぎる可能性があります。その場合はボンゴスタンドの上部をスネアドラムスタンドの下部に移植することで低くできます。(スタンドの種類によっては穴の大きさが合わない場合もありますが…) Bongos のチューニングについては、Snare Drum との行き来の都合上、スティックのチップ側で演奏せざるを得ないので、音が立つようになんかなり高めに締めています。もし人数が多く Bongos と Snare Drum で人員を分けられるなら、Bongos の演奏にはスティックのお尻側を使うのも選択肢の1つです。その場合はあまりに高く締めなくても大丈夫でしょう。Snare Drum の play on the rim の音色にもこだわりたいところです。今回はショルダーの少しチップ寄りのところを使って演奏しました。スティックの素材・太さ・重さなどによっても出てくる音色が違ってくるので色々試してみましょう。ちなみに今回のスティックは VIC FIRTH の SD2 BOLERO を使用しました。

◆Percussion 2 (Sleigh Bells, Bass Drum, Triangle, Tam-tam, 2Wood Blocks)

この曲は、楽器間の移動に時間的な余裕がありません。持ち上げて構えるという時間の必要なトライアングルは、サスペンデッド・シンバルのスタンドに吊り下げて演奏する事が好ましいと思います。3小節目の Sleigh Bells は mp ですが、割とハッキリと入ってからの dim. で良いでしょう。89小節目からの BD は、2つの8分音符がくっついたり突っ込んだりしないように気を付けましょう。[J] からの 2Wood Blocks は8分音符できちんとカウントしながらも、大きく2拍子を感じて演奏すると良いでしょう。

◆Percussion 3 (Suspended Cymbal, Crash Cymbal, 2Wood Blocks, Tam-tam)

このパートは楽器やバチ類の持ち替えが多く、しかも瞬時の移動が必要です。また Wood Block と Tam-tam を Percussion 2 と共有しますので、お互いが演奏しやすいよう配置を考えましょう。Suspended Cymbal は pp から ff まで幅広い強弱で書かれています。弱くても響く音や、mf、f、ff の3段階の強さを叩き分ける等、研究が必要です。使用するマレットは pp から f までを表現できるよう、ヘッドが中くらいの大きさの硬めの毛糸巻きがおすすめです。Crash Cymbal は f や ff にアクセントが付けられていますが、決して最大音量で演奏するのではなく効果的に目立たせるだけで十分です。合奏とのバランスを考えて、合奏を覆い隠してしまうことのないよう気を付けてください。Wood Block はただ1度登場するだけです。慌てず中音管楽器のメロディにきちんと合わせましょう。Suspended Cymbal と Tam-tam の“scratch”は Triangle のピーターを使用しています。続けて演奏する2音ですが、楽器を変えていることやテンポが異なるということを考えて、こするスピードや場所等を色々試してそれぞれが印象的に聞こえるポイントを見つけてください。

◆Percussion 4 (Glockenspiel, Xylophone)

マレットはミディアムハード位の固さで、Glockenspiel と Xylophone がどちらも綺麗に響く物を選択しましょう。5小節目等にある、連符の出だしの音はきちんとした発音を心掛け

て下さい。[H]からの Glockenspiel の演奏は、木管の動きに注意をして、音色なども研究をしてみてください。特に [I]からは、どのようなイメージを持って演奏をするのかということがとても大切となります。